

文部科学省「特別支援教育に関する実践研究充実事業（次期学習指導要領に向けた実践研究）」

平成30年度 実践報告 1年次

特別支援学校における教科等の学習への図書館 機能の活用と読書活動の充実に関する研究



群馬大学教育学部附属特別支援学校

まえがき

今年度、群馬大学教育学部附属特別支援学校では、文部科学省からの委託事業として、「特別支援教育に関する実践研究充実事業（次期学習指導要領に向けた実践研究）」に取り組んできました。具体的なテーマは、特別支援学校における図書館機能の利活用や読書活動の推進です。

本校は、附属小学校が運営主体である図書館を共用しており、附属小学校のご協力も厚く、児童・生徒の読書の場、あるいは居場所として定着しています。

今回は、図書館機能をより積極的・計画的に活用した授業実践に取り組みました。この報告をぜひご覧いただき、ご意見をいただければと思います。

附属小学校や視察等を受け入れてくださいました全国の学校・施設に御礼申し上げます。

群馬大学教育学部附属特別支援学校長 藤森 健太郎



目次



まえがき

1	目次	1
2	本校の図書館について	2
3	実践研究の目的と内容	3
4	「読み聞かせの会」への参加	4～5
5	授業実践の紹介	
	授業実践 ①「ことばやからだであらわそう」 「えほんをよんでつたえよう」	6～8
	授業実践 ②「みんなに紹介しよう わたしのおすすめの一冊」	9～11
	授業実践 ③「読んで伝えよう」	12～14
	授業実践 ④「本紹介バトルをしよう」	15～17
	授業実践 ⑤「じっくり読んで紹介しよう おすすめの本」	18～20
	授業実践 ⑥「夏祭りに向けて公園をきれいにしよう」 「3色栄養バランスご飯をつくろう」	21～23
6	先進校視察を行って…	24～25
7	実践研究の評価	26～27

あとがき

本校の図書館について

本校は、小学部、中学部、高等部からなる知的障害特別支援学校です。校舎を附属小学校と共有していることが特徴の1つです。



- 附属小学校が主体となって運営する図書館を共用している。
- 利用する時間帯は図書館担当職員が常時在室し、いつも温かく迎えてくれる。
- 蔵書数は10600冊を数え、シリーズや種類も豊富にある。

- カーペットを敷いたスペースがあり、安心して利用できる環境にある。
- 休み時間を中心に本を読んだり借りたりする児童生徒が多い。



以上のことから、本校の図書館の現状として、

- 単独の図書館は持っていないが、施設、蔵書もとても充実し、図書館機能を積極的、計画的に利用できる環境が整っている。

- 読書センター機能を活用していたが、学習センターや情報センターの機能を計画的に活用することが少なかった。

実践研究の目的と内容

1 実践研究の目的

新学習指導要領では、言語能力や情報活用能力の学習の基盤となる育成を目指す資質・能力が示されました。また、図書館の計画的な利用とその機能の活用により、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすことや、読書活動の充実も明記されました。また、カリキュラム・マネジメントについても、各学校の特色ある取組とともに進めていくべきとも示されています。

そこで、言語能力や情報活用能力を育成するために、3つの学校図書館機能である、読書センター機能、学習センター機能、情報センター機能の計画的な利活用を図り、読書活動の充実を目指すこととしました。そして、知的障害特別支援学校における図書館機能の拡充や読書活動の可能性について実践をとおして考察することとしました。

2 1年次の取組

1年次は、小学部から高等部までの各授業において、積極的に図書館機能の活用を図り、以下の3点について考察することとしました。

- (1) 児童生徒の学習活動の充実のために、附属小学校の図書館担当職員と連携する際の留意点や配慮事項を考察する。
- (2) 知的障害のある児童生徒が学習センターや情報センター機能を活用して学習するための支援方法とその効果を検討する。
- (3) 各授業における児童生徒の変容を確かめ、年間をとおした児童生徒の変容を評価する方法について検討する。



「読み聞かせの会」への参加

1 「読み聞かせの会」とは

「読み聞かせの会」は併設する附属小学校の保護者（以下、附小保護者）によって構成された「たんぽぽの会」による絵本の読み聞かせを行う時間のことです。

両校ではこれまで、行事交流や交流及び共同学習を盛んに行ってきました。そうした経緯もあり、附小保護者の方の本校児童生徒に対する理解も深まり、本校の児童生徒も参加してはどうかと誘いをいただきました。

そこで今年度は、10月より小学部の児童が参加することとしました。これまでのべ13回参加し、読み聞かせを介した交流が実現しました。



2 参加にあたって

参加にあたり、両校の交流担当で、以下のことを打ち合わせました。

- ・参加学年と参加する時間帯について
- ・児童の普段の様子や実態、特性を踏まえた参加形態
- ・実施場所に参加する児童の顔写真の掲示
- ・これから読む本や読んだ本を、クラス単位で借りる

3 児童の様子



（1）参加した様子

- ・ページがめくられる時に絵本を注視する。
- ・絵本の挿絵を食い入るように見る。
- ・面白いと感じた場面で、隣に座る附属小児童と顔を見合わせるようにして笑う。
- ・徐々に絵本の世界に入り込み、集中して読み手の声を聴いたり絵本のページを見たりする。

(2) 参加後の様子（日常生活での変容）

年度末までの継続した参加をとおして、日常生活において次のような様子が見られるようになりました。



- 教室では、学級文庫にある本を自分から手に取り、休み時間に読むようになった。
- 家庭では、自分から絵本を母親のもとへ持っていき、読み聞かせを願うようになった。

- 校外学習で近隣の公立図書館を利用した際には、これまでに読み聞かせで聞いた本や、興味や関心のある本を自分から手に取り、時間いっぱい読書を行う姿が見られた。



- 絵本の読み聞かせを児童が行うような交流の様子も見られるようになった。



こうした児童の変化と共に、両校の保護者の意識の変化もありました。本校の保護者からは、「また参加したい」「うちも参加してみたい」と参加の数が徐々に増えました。

たんぼぼの会の附小保護者からは、本校児童に合った選書をし、両校の児童が楽しむことのできる読み聞かせの会にしていくといった提案がありました。

授業実践①

小学部 「ことばやからだであらわそう」 「えほんをよんでつたえよう」

1 実践の概要

本実践は、「ことばやからだであらわそう」というテーマの学習において、『ブレメンの音楽隊』を題材として、言葉や身体を使って表現を楽しむ学習活動に取り組みました。その経験を生かし、「えほんをよんでつたえよう」というテーマの学習において、本校小学部児童と群馬大学教育学部附属幼稚園（以下、附属幼稚園）園児と読書活動を介した交流及び共同学習の実践を行いました。後者の学習では、両校園のクリスマス会に向けて、本校児童が『ゆかいなゆうびんやさんのクリスマス』という絵本を附属幼稚園園児に読み聞かせをした後に、板段ボールに手紙を書く活動を行いました。

こうした学習活動をとおして、読書に親しみ、本を読むことが好きになることを目指しました。

2 授業のポイント

(1) 大型絵本



児童の興味や関心を高めるために、2つのテーマの学習において、自作の大型絵本を作成し、この大型絵本を使って、絵本を読んでいく学習活動を展開しました。児童の背丈よりも大きな大型絵本を用いることで、児童が直接手で触れたり、挿絵を注視して文字を指さしながら読んだりするなど、絵本の世界に自分から入り込んで主体的に読む姿が見られました。

(2) 多様な読み聞かせ



絵本の世界に入り込むために、教師による読み聞かせや子どもたちが音読する際には、楽器を鳴らして挿絵の場面の雰囲気や想像する活動（写真左）や、動作化を取り入れ、場面を再現する活動（写真右）をしました。こうすることで、児童が音の鳴らし方や体の動きを考える中で、楽しみながら絵本を読み深めていく様子が見られました。

3 授業の様子（「えほんをよんでつたえよう」を中心に）

「えほんをよんでつたえよう」の学習では、附属幼稚園園児とのクリスマス交流に向けて、①「本校児童が読み聞かせをする」②「手紙を書いて渡す」③「一緒にクリスマスを題材にした造形活動をする」という学習活動を展開しました。



実施にあたっては以下のことに留意し、準備をしました。

- 取り扱う絵本は両校園の教諭が、本校児童の読む力や園児の読書経験を考慮し児童や園児が興味や関心を持ちやすい内容の本を選書するようにしました。
- ブックカートを活用して、教室内に図書コーナーを設け、児童がいつでも読むことができるようにしました。



読み聞かせをとおして、適切な声の大きさや速さで文を読む力が高まりました。また、単語や文などの言葉のまとまりを捉えることができるようになり、言葉の意味を理解しながら読む姿が見られるようになってきました。

交流及び共同学習において、本校児童が読み聞かせを行った際は、児童や園児の絵本への関心が高まり、その後の手紙のやりとりや造形活動では、クリスマスのイメージの広がりとともに積極的な交流のきっかけとなりました。



4 実践をふり返って

実践をとおして、以下のような児童や園児の変容が確かめられました。

- 手に取って読む絵本の内容の幅が広がり、本棚を見て回って本を探したり、今まで読んだことのない本を読んだりする姿が見られた。



また、交流及び共同学習実施後に両校園の教諭が打合せをした際には、本校児童との活動を経て、園児はクリスマスの絵本を読むようになったり、手紙を書いたりする姿が見られたという話がありました。両校園の児童や園児の実態を踏まえ、興味のある内容の図書を介した活動を交流及び共同学習に取り入れた成果が見られたと考えています。

読書に対する興味や関心が高まり、様々な本を読む姿が見られるようになってきたので、今後は、単元ごとの学習の継続や読書活動の充実、学級文庫の充実を図り、読書をより身近なものにしていくことが大切だと考えています。

授業実践②

中学部 「みんなに紹介しよう わたしのおすすめの一冊」

1 実践の概要

本実践は、中学部1年生3名、2年生2名、3年生2名の計7名の学習集団で、11月から12月までの間に全17回実施しました。自分が気に入った1冊について、挿絵や文章から内容を正しく読み取ったり、考えたことを友だちに伝えたりすることをねらいとしました。

2 授業のポイント

(1) 実態とねらいに合わせた選書

まず、以下のことを留意しました。

- ・読むことについての実態を把握する。
(文字を読むことができるか、絵で捉えるか、興味や関心など)
- ・学習のねらいにあった本を、図書館担当職員と選ぶ。(※下記図書一覧参照)
- ・それぞれの生徒の実態に適した本の候補を数冊あげ、子どもたちが選べるようにする。

※学習で使用した図書一覧

生徒	学習のねらい	使用図書
中1 Bさん	挿絵を見て気付いたことを表現すること	もぐらばす のらねこぐんだんシリーズ
中1 Dさん	文章から内容を正しく捉えること	こうえんのおばけずかん びょういんのおばけずかん がっこうのおばけずかん
中1 Eさん	本を読み、自分と友だちの意見の違いに気付くこと	いっきょくいきまあす だじゃれ日本一周
中2 Gさん	興味を持った挿絵について表現すること	おさるのジョージシリーズ
中2 Iさん	挿絵から登場人物の気持ちを捉えること	ぎょうれつのできるパン屋さん ぎょうれつのできるスープ屋さん ティモシーとサラのピクニック
中3 Nさん	写真からイメージしたことを伝えること	みつけてごらん! 海のかくれんぼ
中3 Qさん	単語をまとまりで捉えて読むこと	もりのともだち

(2) 学習の成果物の掲示

- 本をカラーコピーして書き込んだものや、使用したワークシートは廊下や図書館に掲示するようにしました。
- 友だちが見て、「読んでみたい」と思えるように、教師もコメントを入れるようにしました。



3 授業の様子



〈文章から内容を正しく捉えた D さん〉

気に入ったアニメの本の挿絵だけを見て楽しんでいた D さん。挿絵と一致する文章に印を付けて読むことで、文章から正しい内容を捉えられるようになりました。そして、お気に入りの本の中で面白いと思った場面を、説明するように友だちに紹介することができました。

〈登場人物の気持ちを想像した I さん〉

「あのね、きのうね、たのしかったんだよ」と、自分の気持ちだけを話すことが多かった I さん。挿絵や文章から、登場人物が「何をしているか」「どんな気持ちか」を一つずつ捉えていくことで、人物の言動と気持ちを関連付ける姿が見られるようになりました。ピクニック中に雨が降ってきた挿絵を見て、「びっくりしているよ。あめがふってきたから、きゃーって」と伝えることができました。



【友だちと本を紹介し合う様子】



友だちが紹介したページを見て、
「あ！ここにもあるね！」



単語を読んだり、感想を発表したり…
自分に合った方法で表現しました。

4 実践をふりかえって

実践をとおした生徒の姿の変容から、次のようなことを考察しました。

- 学習のねらいをもとに、絵本の中で着目するとよいところを生徒たちにわかる言葉や付箋紙などで印をつけて示したことで、その部分を探したり、想像したりしながら本を読む学習を行うことができた。
- 学習の成果物をまとめ、掲示するなどして振り返りに活用することで、自分が読んでいた本を読み返す姿が見られたり、友だちの紹介していた本を読んだりするなど、他の生徒の読書の興味にもつながった。

実態に合った本を、生徒たちが楽しく読み、自分から進んで学習に向かうことのできる環境が大切だと感じました。実態把握、日常的に読書を楽しめるような工夫を今後もしていきたいです。

授業実践③

中学部 「読んで伝えよう」

1 実践の概要

本実践は、中学部2年生3名、中学部1年生1名の計4名の学習集団で、11月から12月までの間に全17回実施しました。単語をまとまりで捉えたり、絵本の叙述や挿絵を手がかりに主人公の気持ちを読み取ったりすることをねらいとし、4人で読み聞かせをする学習活動を展開しました。

2 授業のポイント

(1) 図書館担当職員との連携

図書館担当職員と、以下の点を打ち合わせ、連携しました。

- 授業の方針やねらいを伝える。
- ねらいに沿った絵本を一緒に選ぶ。
- 選んだ本を紹介してもらったり、まとめて借りたりする。



※本実践で使用した図書一覧

使用図書	選書の理由
もりもりくまさん	• 大型絵本であったこと • 「わお」という感嘆詞が繰り返し出てきて、生徒の関心が高まったり、読み方の工夫をねらったりできる。
もうじゅうはらへりぐま	• 挿絵の描写が大きく、動作化しやすい。
こねてのばして	• 擬音語や擬態語が多く出てくる。 • 挿絵が見やすく動作化のイメージがしやすい。
たくはいびーん	• 繰り返し読むことで言葉の変化が楽しめる。 • みんなで声を合わせるようなフレーズや場所がある。

(2) マルチメディア機器の活用

- 絵本のページを注視できるように、書画カメラを用いて絵本のページを拡大して提示しました。
- 絵本のページをコピーし
「どのように読むか」
「どんな動きを取り入れるか」
を考えて書き込むようにしました。



(3) 発表の場と評価

- 読み聞かせを発表する機会を全部で5回設けました。
- 図書館担当職員や学部の先生、教育実習生から、感想や改善するとよい点について助言をもらうようにしました。



3 授業の様子



2年生のHさんは、登場人物についての「ちからもち」という叙述から、「ちょっと強くてこわい感じで」と、声色や声の大きさ、そして挿絵から登場人物の動きに近づくように真似て読み聞かせをするようになりました。

また、読み聞かせの発表を終えた後に、「今度は小学部の別のクラスに読み聞かせをしに行きたい」と感想を話す様子が見られました。



2年生のIさん（写真左）は、「動きが面白かったよ」などの読み聞かせの感想を聞いて自信を深め、挿絵や叙述を手がかりにイメージした動きや読み聞かせの際に行う動作を自分から友だちに伝えるようになりました。

同じく2年生のKさん（写真右）は、ダイナミックな動きとともに、声の大きさを変えたり、読む速度を変えたりと、読み方に変化が見られるようになりました。

4 実践をふりかえって

実践をとおした生徒の姿の変容から、次のようなことを考察しました。

- 図書館担当職員と連携し、授業のねらいを伝えて一緒に選書を行ったことで、生徒の実態に合った図書の活用を図ることができ、主体的な学習につながった。
- マルチメディア機器を活用して、友だちと内容を共有したり、本の活用方法を工夫したりしたことで、絵本の挿絵や文章により着目するようになり、学習活動やその後の読書活動が充実した。



授業後には、休み時間に本を自分から読むことが増えました。

今後もこうした姿が増えるように、読書活動を取り入れた実践の充実を図り、生徒が読書を楽しむことができるようにしていきたいと思ひます。

授業実践④

高等部 「本紹介バトルをしよう」

1 実践の概要

本実践は、高等部1年生2名、2年生2名を対象とした国語科の授業実践です。

生徒は、事前の学習で、「ブックランキングをつくろう」という授業に取り組み、読み聞かせを聞いて本の内容を聞き取り、お気に入りの場面を絵に描いたり、描いた場面を友だちに紹介したりする活動を行いました。このような学習経験から友だちの紹介する本を見て「面白そう」と感じると、自らその本を読む姿が見られるようになってきています。このような生徒の読書の実態を踏まえ、生徒たちが読んだ本のおすすめのページや好きな場面について、友だちに伝わるように具体的に話したり、分かりやすく伝えたりする力を身に付けてほしいと考えました。

そこで、本実践では、ビブリオバトル（1人ずつ本を紹介した後、投票でチャンプ本を決める）を行い、友だちに内容が伝わるように話すことをねらいとしました。

2 授業のポイント

（1）生徒の実態に合わせた本を読むための支援

- 内容について「どうしてだと思う?」「〇〇（登場人物の名前）は何をしているの?」と問いかけをはさみながら読み聞かせをする。
- 文章に関連する挿絵を指さしながら読み聞かせをする。
- 本の一部をコピーして、文章に出てくる漢字にふりがなを振っておく。
- 本の読み方（段の進み方）をメモ書きで示す。

（2）図書館担当職員との連携

①導入段階

- 教師と図書館担当職員は、生徒1人1人の興味や関心のある内容と単元における個々の学習のねらいを共有し、それぞれの生徒に合った本を数冊選んでおくようにした。
- 生徒自身が「〇〇はありますか」と図書館担当職員に伝える場面を設定し、他者とやり取りしながら自分の読みたい本を探す体験ができるようにした。
- 生徒が本を借りる際に、本を読むきっかけとなるように、本の内容や特徴等を図書館担当職員から簡潔に伝えていただいた。



※学習に使用した図書一覧

生徒	学習のねらい	使用図書（ヒブリオバトルでの紹介回数）
高1 Eさん	出来事や内容を正確に伝えること	「演奏しよう！バンドっておもしろい」（3回）
高1 Gさん	伝わるように詳しく話すこと	「うさぎのチッチ」（2回） 「ちびうさぎ」（1回）
高2 Hさん	メモをてがかりに必要なことを伝えること	「ちびまる子ちゃん イタリアから来た少年」（1回） 「ふゆのよるのおくりもの」（2回）
高2 Kさん	大切なことを分かりやすく伝えること	「戦国武器 甲冑事典」（3回）

②学習の展開段階

- ・授業の様子や学習の経過を図書館担当職員に伝え、生徒の学習状況に応じて読むとよい本を紹介していただいた。
- ・生徒が前時の活動での反省を次時に生かすことができるよう、投票の結果を受けてアドバイスをいただいたり、本のおすすめポイントを伝えていただいたりした。

(3) 教材・教具

本を読んだ感想を話す際「面白かった」と話すことが多い生徒が、様々な気持ちの表現に気付くことができるように、「かっこいい」「かなしい」「すき」「かわいい」等の感情をイラストとともに書いた葉を作成し、本を読む際に使用するようにしました。



3 授業の様子

(1) Kさんの変容

1回目のバトルでは、印象に残った文章を、最初から全て読み上げる姿がありました。紹介する様子の映像を教師と振り返る中で、「ちょっと長い」「言葉が分かりにくい」等、紹介の仕方を見直すことができました。



図書館担当職員から「この本は言葉が難しいので、説明をつけ加えると良い」とアドバイスをいただき、教師と言葉の説明を考えたり、3分に収まるように内容を精選したりすることで、2回目の紹介では、伝えたい内容を整理して友だちが分かるように伝えることができました。

授業実践⑤

高等部 「じっくり読んで紹介しよう おすすめの本」

1 実践の概要

本実践の学習集団は高等部1年生3名、2年生2名で、2月から3月までの間に全17回実施しました。1冊の本を丁寧に読むことをとおして、文字や絵に着目しながら内容を捉えて読むことの楽しさに気付いたり、その内容を友だちと紹介し合い、様々な種類の本の面白さを共有したりすることをねらいとしました。その中で、生徒が自分の興味関心に気づき、今後、読書を余暇活動の1つとしたり、学校や地域の図書館を利用したりするきっかけになるとよいと考えました。

2 授業のポイント

(1) 生徒の実態や興味関心に合わせた選書

生徒が卒業後に自ら読書をすることを目指し、本単元の授業を行うにあたって、図書館担当職員に以下のことを伝え、一緒に本を選ぶようにしました。



- 生徒の興味や関心
- 本単元の目標
- 授業の様子や学習の経過
- 生徒の変容

→情報を共有することで、「次に何を読むと良いか」についてもアドバイスをいただくことができました。

※授業で使用した図書一覧

生徒	学習のねらい	使用図書
高1 Bさん	自分の興味を持った本をめぐりながら読み、内容を捉えること	「まほうのコップ」 「トマトのひみつ」 「中を そうそうしてみよ」 「よみきかせ いきもの しゃしんえほん6 うまれたよ!メダカ」
高1 Cさん	自分から物語文を読み進め、物語の要点を捉えること	「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」
高1 Eさん	台詞や本の挿絵から登場人物の感情を読み取り、自分から本を読み進めること	「きょうは なんて うんが いいんだろう」 「コブタくん もう なかないで」 「ふしぎな キャンディーやさん」 「キツネのおとうさんがニッコリわらっていいました」

高2 Kさん	本の内容を詳しく読み取り、本を楽しみながら読むこと	「コミック版日本の歴史⑪ 幕末・維新人物伝 坂本龍馬」 「コミック版日本の歴史⑳ 戦国人物伝 長宗我部元親」
高2 Oさん	文字に着目して内容を読み取って本を自分から読み進めること	「わくわく幼年どうわ・6 もりの なかよし」

(2) 本を読むための支援

一人一人の実態に応じて情報端末機器を用いて本の音声が行くようにしたり、内容を捉えられるように付箋紙やワークシートを活用したりする等、個々の生徒の実態に合わせて支援具を用意しました。また、集中して本を読むことができるよう、個々の読書スペースを確保し、音声が行き取りやすいようにヘッドフォンを活用しました。



(2) 授業で読んだ本の掲示

- 自分が読んだ本をすぐに確認することができるように、授業の中で読んだ本の表紙を見せてブックカートに置きました。
- 休み時間に本を読み直すことができるように、教室にブックカートを設置しました。



3 授業の様子

(1) 図書館担当職員との連携

Bさんは、自分の気に入った言葉を繰り返したり、写真を好んで見たりするという実態から、写真を多く掲載した絵本を選び、授業で使用しました。

授業で、教師が読み聞かせを行い、Bさんが特に興味を持った本が、自然物が多く出てくる本、物語よりも、読者に話しかけたり問いかけたりするような語り口の本、特徴的な言葉を繰り返す本などであることを図書館担当職員に伝え、内容が似ている本を授業担当者として図書館担当職員で選書しました。



(2) 情報端末機器を用いて自分で本を読む

Bさんが興味を持った本を、自分で読むことができるように、情報端末機器に教師が音読した音声を録音しました。音声の流れると、情報端末機器に映る絵本の写真と手元にある絵本を交互によく見たり、教師がページをめくるのをきっかけとして自分から情報端末機器を操作してページをめくったりする姿が見られました。



徐々に、本の最初から最後のページまで音声を聞いて楽しんだり、写真をよく見たりして、音声の言葉を真似て言ったり、写真に写っているものを教師に指さして伝えたりする姿が見られるようになりました。

(3) 休み時間に本を読む、本を借りに行く

授業で活用した本をブックカートに乗せて教室に置くようにすると、休み時間に「コップ」「トマト」と言いながらブックカートの方を指さし、本を読みたいことを教師に伝える姿が見られました。

そのようなBさんの姿から、休み時間に読書を楽しんだり、自分から本を探したりすることができるようにしたいと考え、教師と学校図書館へ行って本を探しました。授業で使った本を2冊を選んで持っていき、「本、ありますか」とBさん自身が図書館担当職員に尋ね、教師はBさんが読みたい本の特徴を図書館担当職員に伝えることでBさんが興味を持ちそうな本を借りることができました。



4 実践を振り返って

- 図書館担当職員と連携し選書したり、Bさんが自分で本を読めるように教材を工夫したりしたことが、本に興味を持つ姿や自分から本を手にする姿につながった。Bさん以外の生徒も、授業で読んだ本の続きを休み時間に読む姿が見られた。
- 興味のある本を見つけることで、図書館で本を探すためのキーワードが分かるようになり、自分で本を探すきっかけをつくることができた。学校図書館で探す練習を行ったことで、地域の図書館を利用して「歴史の本はありますか」と司書の方に尋ね、本を探す生徒もいた。
- 今後は図書館の利用についてオリエンテーションを行うことで、自分から本を探す方法を身に付けられるようにしていきたい。

授業実践⑥

高等部 「夏祭りに向けて公園をきれいにしよう」

「3色栄養バランスご飯をつくろう」

1 実践の概要

高等部では、作業学習や生活単元学習として、公園のクリーン作業や調理実習を行い、その中で図書館を利用した調べ学習を行いました。

「夏祭りに向けて公園をきれいにしよう」（作業学習）では、学校近隣の公園で行われる夏祭りに向けて公園の整備作業を行い、花壇に植える花を決めるために図鑑等を用いて花の種類を調べました。

「3色栄養バランスご飯を作ろう」（生活単元学習）では、三色栄養食品群の表を元にして、赤・黄・緑の栄養バランスの揃った弁当を作るために、図書館のレシピ本を参考に弁当に詰めるおかずを考えました。

2 授業のポイント

（1）生徒が自分で必要な本を選ぶための支援

学習のねらいに応じて、事前に関連する資料を教師がブックカートに乗せておいたり、図書館担当職員に本のある範囲を教師が事前に聞いておいたりすることで、生徒が自分で本を探すことができるようにしました。

（2）資料の中から必要な情報を探すための支援

- 調べたことをメモするための付箋紙やワークシートに、「花の名前」「色」「調理時間」「材料」と項目を示しておくようにしました。
- 調べ学習を行う際に、教師も一緒に調べ、目次に着目して資料から必要な情報を探ることや見当を付けて探し、必要な情報を絞ることを、資料を探す方法として示しました。



3 授業の様子

（1）「夏祭りに向けて公園をきれいにしよう」

- ① 知っている情報を基に調べたり本で確認したりする



図鑑を用いて公園の花壇に植えたい花を調べて完成イメージ図を作りました。

ブックカートに置かれた本の中から自分の知っている花の名前(「ひまわり」「チューリップ」等)を見つけることができましたが、その他に調べたい花については、何度もページをめくって探す様子が見られたので、教師が、目次を見ると目的の花が何ページに載っているかわかることを伝えることで、目次から花の名前を見つける様子が見られました。

② 資料を使って「知らなかったこと」を調べる

地域の人から「夏祭りの時に咲いている花が植えられると良い」と意見をいただきました。そこで、季節の花を調べることのできる本を選びました。

「夏」の項目のページをめくりながら花を列挙したり、「夏祭りの季節はサルビアがきれいですね」という地域の人からの提案を受けてサルビアを調べたりと、「夏」という言葉をキーワードに知りたい情報を調べることができました。



③ 視覚化された情報を作業に生かす

地域の方から、「同じ花が並んでいるときれい」「花の高さがそろっているときれい」という意見をいただき、花の並べ方を考えました。どんな言葉に着目して情報を探せば良いか分かるように、付箋紙に「花の名前」「色」「長さ」と項目を書きました。図鑑から項目と同じ言葉を探し、色や種類、草丈について調べることができました。



草丈の情報が「cm」等の単位を用いて書かれていたため、長さのイメージを持たず、完成イメージに生かせない姿がありました。そこで、生徒が調べた情報を元に花の模型を作成し、花壇に配置しました。情報を視覚化したことで、「小さい花が後ろだと見えないので前にします」と花の位置を入れ替えたり、「もう少したくさん植えたい」と花を増やしたりする姿が見られました。

(2) 「3色栄養バランスご飯をつくろう」

①自分の好きなものから調べる

弁当に入りたいおかずをレシピ本から探しました。初めは、自分が好きなおかずや食べたいものが載っている本を図書館担当職員に「肉の本はありますか」と尋ね、調べることができました。全員が1つのテーブルを使ってレシピを調べていたため、「その料理おいしそうですね」と、友だちが見ている本にも興味を持つ様子が見られました。



②条件をもとに情報を絞る



朝、弁当を作ることを想定して、20分間で調理が終了するものを探しました。自分の作りたいものが調理時間20分以上であった生徒は、本を見比べる中で、同じ料理でも本によって調理時間が変わることに関心し、「他に〇〇の作り方が載っている本はありますか」と図書館担当職員に尋ね、複数の資料を比較し、自分にとってよいレシピを探ることができました。

学校の給食室にいる栄養士から「もう少し野菜が多いと良い」という意見をもらい、栄養について調べました。栄養素が分かりやすく書かれた本があると良いと考えました。そして、学校図書館にある本を確かめ、より生徒の実態に合っている本や必要な情報を得るために、蔵書として新たに購入しました。栄養素についての本を読むことで、自分の弁当にどのような栄養素があるとより良くなるのかを色を手がかりに理解し、卵焼きにキャベツを入れる等、工夫しようとする姿が見られました。



4 実践を振り返って

- ・図書から必要な情報を探す方法や図書館担当職員に本の場所について尋ねる方法等が分かり、休み時間等に好きな図鑑を借り、写真を見て絵を描く姿も見られるようになった。
- ・図書館担当職員と連携し、授業に必要な本を準備することができました。また、教材を工夫することで、生徒が沢山の資料の中から自分の探したい情報を調べることができた。資料の中で着目すべき点を分かるようにしたり、調べた情報を視覚化したりする支援が必要だと感じた。
- ・生徒が自分から地域の図書館等を活用し、調べる活動を行うことも想定して、図書館利用のオリエンテーションをしたり、基礎的な知識を身に付ける学習を行ったりすることが必要であると考えた。

先進校視察を行って…

本校での実践研究を進めていくにあたり、図書館機能を活用した実践や読書活動に先進的に取り組んでいる学校を視察させていただきました。そこから本校と比較して考えたことを記していきます。

1 視察校

- (1) 長野県立伊那養護学校
- (2) 千葉県立槇の実特別支援学校
- (3) 東京都立鹿本学園

2 視察の内容

(1) 長野県立伊那養護学校

○一人一人の読書実態と必要な環境の整備

- ・どのように読むか、どのように情報を捉えているかを見取る。
- ・いつでも誰でも自由に入出りできる図書室にする。
- ・座卓、テーブルなど、それぞれが居心地のよい場所で過ごせるようにする。

○全校での読み聞かせの実施

- ・教職員の分担をスケジュール化し、毎月読み聞かせを行っている。
- ・定期開催、固定場所（図書室）での開催で、子どもたちに分かりやすいように工夫している。
- ・外部ボランティアも読み聞かせに参加している。

○委員会の活用と、使いやすい図書館

- ・図書委員会が中心になって、図書カード作り、本の分類を行う。
- ・十進分類法を基本に、子どもたちが自分で探し、自分で返却できるように工夫する。

○本で教員サポート

- ・教職員が、特別支援教育に関する本を持ち寄り、展示する。
- ・一般書店などでは求めにくい専門書などの情報を職員間で共有できるようにする。

(2) 千葉県立槇の実特別支援学校

○年間計画に沿った月1回の読み聞かせ

- ・子どもたちの実態に合わせ、ボランティアの方が絵本を選書し、手遊びを交えながら2～3冊読む。
- 気持ちを落ち着けるために、図書室がクールダウンの部屋として使われることがある。

(3) 東京都立鹿本学園

○オープンライブラリーの活用

- 図書室前や、各学部のフロアに長い本棚を設置する。
- 本の表紙が見えるように置くことで、知的障害のある子どもにも、内容が分かりやすく手に取りやすいように工夫している。
- 各学部の担当教員が定期的に整理し、季節の本、実態に合わせた本が置かれている。

○魅力ある図書館作り

- 古い本は除籍し、新刊を多く取り入れて、楽しく気持ちよく本が読めるような環境をつくっている。
- 職員おすすめの本、新聞など、掲示物の充実によりいつでも情報に触れられる環境を整える。
- 全校での読書週間の実施し、多読賞の表彰をすることで、子どもたちの意欲を高める。

○子どもたちの変容

- 読書数を記録するカードと、本の題名を記録するカードがあり、実態に合わせて使い分ける。
- どの程度読むようになったか、どんな本を読むようになったかなどのように読書の質の変化が見取ることができる。
- 担任や家庭でカードを共有し、選書に反映する。

3 本校との共通点・相違点

〈共通点〉

- 児童生徒の実態に合わせて、必要な本を選んでいる。
- 読み聞かせを定期的に関催しており、様々な本に親しめるように工夫されている。
- 掲示物を工夫し、本に関連した情報をいろいろな場所で得られるようになっている。

〈相違点〉

- 自校の図書室があり、子どもたちの「居場所」として休み時間や活動時間に活用している。
- 読書カードなどから、子どもたちの読書の質の変化を見取り、家庭での読書や日々の読書活動に生かしている。

4 所感

各校とも、図書館や読書活動を担当する職員の方々が、子どもたちが居心地良く過ごし、自分から進んで本に親しめる図書館として整備を進めていて、大変参考になりました。

本校は、図書館を附属小学校と共用しています。「共用」という利点を活かし、読書を介して小学生との交流が生まれたり、蔵書数の多い小学校の図書館を活用して幅広い種類の本を読めたりすることができる良さがあると改めて感じました。

「楽しく読める環境」「工夫された掲示」「教員サポート」など、読書センターや情報センターとしての図書館機能の充実を進め、本校では今後、子どもたちの実態に合った本を活用して授業の展開を継続して試み、学習センターとしての機能も充実していきたいと考えています。

実践研究の評価

1 成果について

(1) 図書館担当職員との連携

- 児童生徒が図書館を訪れた際に、目的の本や探している本について、直接、本の内容や特徴を児童生徒に助言してもらったり、事前に探しやすいところに置いてもらったりすることができた。
- 授業づくりにおいて積極的に図書館担当職員と連携し助言を受けるなど、本校職員の意識の変化が見られ、児童生徒の興味や関心、授業におけるねらいや目標を伝え、扱う本について共に考えることができた。



(2) 図書館機能を活用して学習するための支援方法とその効果

① マルチメディア図書や書画カメラ、タブレット端末の活用による効果

- 小さな絵本のページを拡大して提示することで、友だちが読んでいる本の楽しさを共有できた。
- 文字を読むことに困難さがあっても、音声と視覚的效果によって本を読むことができ、本への興味や関心が高まった。
- 全体的な指導場面や読み聞かせ場面に馴染めない児童生徒が、個々のペースでじっくりと読むことができた。

② 大型絵本や掲示物等の活用による効果

- 児童生徒の興味や関心の高まりとともに、主体的に学習する姿を引き出すことができた。
- 授業のねらいや個々の学習のねらいに応じて図書の活用と学習活動の充実が促進された。
- 授業以外の場面においても、大型絵本や掲示物があることで、読書への興味や関心の高まりや拡がりが見られた。

(3) 児童生徒の変容と年間をとおした評価

- 児童生徒の実態に合わせた本を読むことの支援やブックカート等を用いた教室内の読書環境の改善により、自ら本を手にとって読み始める姿が見られるようになった。
- 授業の中で絵本の紹介を聞いたり、掲示物を見たりすることをおして、友だちが読んでいる本に興味を持ち、普段読んでいなかった分野の本にも関心を広げて読む姿が見られるようになった。

2 課題について

- ① 読書活動をおして、児童生徒のどのような言語能力の変容があったかを客観的に確かめたり、評価したりする方法の検討が必要である。また、児童生徒の図書資料の利用状況の変化だけでなく、読み方や読書の質の変化についても評価をしていけるようにする。
- ② 1年次は小学部、中学部、高等部の各実践のそれぞれの評価を行い、次時の学習につなげることができたが、年間をおして計画的に実践を行っていけるようにすることが十分ではなかった。

3 2年次に向けて

以上の成果と課題を全職員で確かめ、2年次の実践研究の方向性を以下のように検討しました。

1年次の実践をおして、児童生徒が図書に親しんだり、図書館を落ち着いて過ごしたりする場所として一層身近になったと考えます。また、授業構想の段階から、図書館担当職員との連携を図ることで、学習センターや情報センターとしての機能を拡充させていく可能性を見出すこともできました。2年次は、こうした連携を、地域の図書館等の利活用にも広げていくことが重要であると考えます。

また、児童生徒の一人一人の読書の実態を的確に把握したり、言語能力や情報活用能力の伸長を確かに見取ったりするために、「読書カルテ(案)」を作成し、活用していきたいと考えます。

さらに、児童生徒の言語能力等を組織的、継続的に育成していくために、1年次の実践を基に「図書館利活用計画(案)」を作成し、カリキュラム・マネジメントによって、評価・改善を重ねていきたいと考えます。



あとがき

本実践研究を進めていくにあたり、新潟大学教育学部 足立幸子 准教授，群馬大学教育学部 河内昭浩 准教授にご指導をいただきました。

また、先進校の視察では、長野県立伊那養護学校、千葉県立槇の実特別支援学校、東京都立鹿本学園の関係者の皆様にご協力をいただきました。

多くの方からのご指導ご助言があり、ここに実践を1つにまとめることができました。心より感謝申し上げます。

群馬大学教育学部附属特別支援学校 副校長 須田 雅人

平成30年度 実践報告 1年次
特別支援学校における教科等の学習への図書館機能の活用と読書活動の充実に関する研究

発行日 平成31年3月22日

編集責任者 須田 雅人

発行者 藤森 健太郎

発行所 群馬大学教育学部附属特別支援学校
前橋市若宮町二丁目8番1号

TEL:027-231-1384

印刷 上武印刷株式会社

TEL:027-352-7445